

1/11

地域農業振興のけん引役に

栃木県女性農業士に認定



1月11日に栃木県公館において、「栃木県農業士・女性農業士・名誉農業士」の認定式が行われ、本市から花園の西岡 智子さんが女性農業士に認定されました。西岡さんは、お米の6次産業化への取り組みや、農家民泊などのグリーンツーリズム事業を推進するほか、国、県が主管する「農業女子プロジェクト」や市の「農村生活研究グループ協議会」などに所属し、女性農業者の模範となる活動を続けており、地域の中心的な担い手として活躍されています。

1/6

お米の国際大会で金賞

第23回米・食味分析鑑定コンクール国際大会



令和3年11月27日に開催された「第23回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」において、大田原市宇田川の阿久津 政英さんがこのほど、最上位の国際総合部門で金賞に選ばれ、市長を訪問されました。農業歴50年の父 正徳さんと育てた「ゆうだい21」で初の最高賞受賞に輝き、栃木県勢の同賞受賞は20年ぶりとなります。

本受賞は本市生産者の励みとなり、今後の更なる活躍が期待されています。

市史編さんだより vol.17

ジャッコイ(カヤツリグサ科)は、会津の白虎隊にちなんだ和名の植物で、植物学者 牧野 富太郎 氏により名づけられました。分布地は、オセアニア・東南アジアなどですが、台湾・沖縄には見られず、突然福島県白河市表郷付近に現れる珍しい植物です。平成10年(1998)に、東京都立大学の牧野標本館から栃木県立博物館に、「大田原のジャッコイはどうか」との問い合わせがあり、標本のラベルのコピーが届けられました。そこには、「(採集地)下野大田原、(採集日)明治38年1月3日、(採集者)渡辺 留吉」と記されており、福島県だけでなく大田原市内にも自生していたことが分かったのです。

採集者の渡辺 留吉 氏は、県立大田原中学校(現大田原高等学校)の教員で、退職の際に自分の採集標本を同校に寄贈していたことを家族の方から伺いました。大田原高校に確認したところ、埃だらけの標本棚(写真右上)の中からジャッコイの標本を発見しました(写真右下)。大田原高校では標本の保管転換を希望していたので、寄贈者の家族にお返しし、その後は家族の意向に添って保管することにしました。見つかった標本は、採集日が明治38年(1905)5月15日のものでした。

ジャッコイは今でも福島県にのみ自生しているのが定説です。現在、大田原市内にまだ自生するのか、それとも絶滅したのか、分かりません。ジャッコイの自生環境は、湧水近くの水深5~10cmくらいの砂混じりの川底で、流れが少ないところです。皆さんも自宅の周りを探してみませんか。

(自然部会 田代 俊夫)

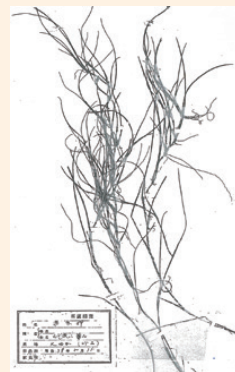
自然部会調査速報⑥

～大田原にもあったジャッコイ～

問文化振興課 本4階 TEL(23)3135



大田原高校で標本を保管していた棚 (平成13年12月26日撮影)



ジャッコイの標本 (明治38年5月15日採集)